

# 新年のご挨拶



常陸大宮市長  
三次 真一郎

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこころからお慶び申し上げます。昨年は元号が「平成」から「令和」になり本県での開催が45年振りとなった、第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体では、高円宮妃殿下をお迎えし、なぎなた競技会を開催しました。観客の皆様の大きな声援を受け本県が総合優勝、そして、本県選手団が天皇杯・皇后杯ともに1位を獲得した記憶に残る素晴らしい大会となりました。しかし、国体直後の10月12日、令和元年台風第19号の襲来により市内の久慈川、那珂川、緒川の流域に甚大な被害をもたらしました。地球温暖化の影響が世界的規模で現れるなど「天災は忘れたころに」ではない時代になったことを改めて痛感した激甚災害でした。さて、本年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本市は、パラオ共和国のホストタウンに認定されており、ホストタウン交流計画に基づき、市内小中学校の児童生徒との交流を行うなど、市全体で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図っております。今大会を契機として、発展的で継続的な文化交流を進め、教育や産業振興、市の情報発信などのさまざまな分野でのレガシー（競技大会後に残る有形無形の社会的遺産）となるよう取り組みを進めてまいります。また、少子高齢や人口減少対策を最重要課題として位置づけ、市の将来像を見据えた「第二期創生総合戦略」の策定を進めております。常陸大宮駅周辺整備事業や各支所を拠点とした周辺地域の活性化などの計画を着実に進め、「持続可能なまちづくり」と「地域をつなぎ安心して暮らし続けられる拠点づくり」を目指してまいります。市独自の子育て支援では、子育て世代包括支援センター「ぬくもり」を中心に、妊娠から子育てまで切れ目のない支援を展開しております。今後も市の宝である子供たち、保護者に寄り添い、なお一層子育てをしやすい環境づくりに力を入れてまいります。未来を担う子供たちへ「ふるさと常陸大宮」をつないでいくために、これまで進めてきた取り組みをさらに加速させることで、「人が輝き 安心・快適で活力と誇りあふれるまち」が実現されると考えています。結びに、市民の皆様のご健勝とご多幸、そして実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げ新年の挨拶といたします。



常陸大宮市議会議員  
淀川 茂樹

明けましておめでとうございます。令和2年の年頭にあたりまして、常陸大宮市の発展と市民の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。市民の皆様が、安心して暮らせるまちとなるよう本年も努力してまいります。そのためには、より開かれ、信頼される議会を目指し、市民の皆様の付託に応えてまいりたいと、改めて決意しております。昨年は、5月1日の第126代天皇の御即位に伴い「令和」の時代が幕を開けました。一年を振り返りますと、洪野日向子選手の全英女子オープンでの優勝や日本で開幕されましたラグビーワールドカップでの日本チームの躍進、また、リチウムイオン電池の開発者吉野彰博士のノーベル化学賞の受賞などがありました。本県におきましても、第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体が開催され、茨城県が天皇杯・皇后杯を獲得、本市で開催されましたなぎなた競技会においても茨城県が総合優勝するなど明るい話題が多くありました。一方で、昨今の地球温暖化に伴う気象変動により、各地で災害に見舞われ、本市でも台風第19号により、多くの被害を受けました。被災されました皆様には、一日も早く普通の生活に戻ることができるようお祈り申し上げますと共に、議会としても、復旧復興に向けて全力で取り組んでまいります。さて、今年も東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本市では、ホストタウンとしてパラオ共和国の選手団の受け入れを行いますが、市民で伴に祝い、一体となって取り組むことで更なる一体感が生まれることを願っております。昨今では、地方分権化の進展により、住民に身近な市の役割は益々重要となっております。本市政では、人口減少・少子高齢化への対応、中山間地域や中心市街地の活性化、地球温暖化防止に向けた環境対策、産業の振興など、課題が山積しております。このような課題を解決するため、市民の代表である市議会として、議員お互いが知恵を出し合い、執行機関とも連携を図り、互いに切磋琢磨しながら、市政発展のため、鋭意努力してまいります。結びに、本年が皆様にとりまして、実りある飛躍の年となりますよう、心からご祈念いたしますとともに、今後も一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

